

林紓冤罪事件簿 訂正表 樽本照雄作成 2013.7.7 訂正

2007.12.31 杉田英明氏よりご指摘をいただきました。多謝。 追加します

22 頁 20 行	出されてはない。	出されてはいない。
34 頁 9 行	「導論」	「導言」
34 頁-6 行	「導論」	「導言」
38 頁 5 行	「導論」	「導言」
39 頁 20 行	「導論」	「導言」
40 頁 9 行	「導論」	「導言」
47 頁 2 行	文学意味の	文学的意味の
54 頁-9 行	書かかれている。	書かれている。
76 頁 13 行	/ 参議院	/ 参議員
76 頁-7 行	校長おも	校長をも
77 頁 7 行	参議院張元奇	参議員張元奇
94 頁 9 行	劉半農	劉半儂
95 頁-3 行	また該校評議会の議決で	また該校評議會は
100 頁 16 行	信用でき証拠	信用できる証拠
103 頁-3 行	主客が動転し	主客が転倒し
110 頁-6 行	「導論」	「導言」
130 頁 12 行	大問題にされる林紓の短編小説について自分で言及している、 と誤解されることになる。 (赤字削除)	
130 頁-9 ~ -5 行	林紓がここで述べている「自話新楽府」は、彼の「妖夢」だと間違っ て考えられることが多い。つまり、「妖夢」を書いて蔡元培を罵ったことを「謝罪している」と 勘違いする文章がほとんどである。陳独秀もそれに含まれるか。違う。題名が「自話新楽 府」だと書いてあるではないか。「妖夢」を指しているのではない。謝罪もしていない。(赤 字削除)	
訂正 林紓がここで述べている「蠡叟叢談」に彼の「荊生」と「妖夢」が含まれてい る。だが、謝罪はしていない。		
133 頁 9 行	大学から追放というのではないが、 陳独秀 (赤字削除)	
146 頁 11 行	喪服中	服喪中
147 頁 2 行	教員なかのひとり	教員のなかのひとり

148 頁 6 行 を代表していた を明らかに示していた
 151 頁-4 行 「導論」 「導言」
 158 頁-9 行 実力を外から 軍事力を
 160 頁 14 行 ~~一説に 3.18-22(『林紘研究資料』83-85 頁による)~~ (赤字削除) 訂正 『林
 紘研究資料』85 頁が 1919.3.18-22 とするは誤り
 176 頁 8 行 「導論」 「導言」
 177 頁 1 行 掲載さている。 掲載されている。
 187 頁 10 行 「導論」 「導言」
 189 頁 15 行 「導論」 「導言」
 193 頁 5 行 ~~『九三年』~~ (赤字削除)
 194 頁-11 行 文学意味の 文学的意味の
 204 頁 3-4 行 ~~結果として、阿英は林訳シェイクスピア冤罪事件にかかわることを免れたと
 いうことができる。~~ (赤字削除)
 224 頁 13 行 混同しているかを 混同しているのを
 266 頁 9-10 行 ~~一貫して林訳を称賛している。林訳シェイクスピアについては、たぶん故
 意に小説化には触れない。ところが、~~ (赤字削除)
 271 頁 3 行 low voce low voice
 292 頁 4 行 光緒三四年 光緒三十四年
 292 頁 11 行 光緒 34.7.25 (1908.8.21) 光緒三十四年八月二十五日 (1908.9.20)
 311 頁 17 行 できる できる。
 337 頁-12 行 はじめ停止 はじめて停止
 348 頁 6 行 削除につても 削除についても
 365 頁-11 行 一説に 3.18-22 一説に 3.18-22 とするのは誤り
 372 頁 2 行 「引車売漿」 「引車売漿之徒」
 377 頁 4 行 一説に 3.18-22 85 頁で 3.18-22 とするのは誤り
 387 頁 25 行 このカッコは…… (前行末に追い込み)
 380 頁 30 行 いうまでも該文 いうまでもなく該文
 405 頁右 15 行 陳福康を陳独秀の後ろに移動
 417 頁右 12 行 張俊才に 190 を追加

以上